

閉会 午後 0時06分

○委員長（倉部光世君） （中断）一番にやることにさせていただきまして、介護保険の審査をさせていただきたいと思います。

ただいまから、教育福祉委員会に切り替えます。

○委員長（倉部光世君） ただいまの出席委員数は全員です。菊川市議会委員会条例第16条の規定による定足数に達しておりますので、ただいまから教育福祉委員会を開会いたします。

教育福祉委員会に付託されました第14号 令和4年度菊川市介護保険特別会計予算を議題といたします。

出席者は同じですので、このまま質疑を行いたいと思います。

事前通知を出された委員の質疑をお願いしたいと思います。1番が内田委員になっていきます。

○15番（内田 隆君） どこに載せとったか分からん。介護保険の説明資料だよな。

○委員長（倉部光世君） 特別会計なので、さっきのは一度閉じていただかないと。

○事務局（本間陽子君） 議案の第14号になります。

○委員長（倉部光世君） 15番。

○15番（内田 隆君） 15番です。介護保険の2、1、1のところ居宅介護サービスの中で、前年比6,923万5,000円という増額になっていますけど、この主な理由を教えてください。

○委員長（倉部光世君） 答弁を求めます。濱野長寿介護課長。

○長寿介護課長（濱野和宏君） 長寿介護課長です。居宅介護サービス費についてですが、こちらは要介護認定者が利用する訪問介護やデイサービスの利用にかかる費用となっていますが、令和2年度から引き続き、認定者数の増加が見られまして、居宅系のサービスが増加しているということが要因となっています。

令和2年度については、新しい計画策定をする中で市内の状況等を介護事業所の様子等を基にして検討していたわけですが、認定者数の増加ということもありますけどコロナの関係等もありまして、本来であれば入院して療養をするような患者さんが在宅療養に切り替えた。そのときに、在宅で診るに当たって訪問系のサービス等を利用する方も増えたというふうに聞いていますので、そういうようなことが一つの要因になっているかと思っています。

そういった状況が令和2年中と令和3年度の上半期ぐらいまで続いておりましたので、そういったところが増加の要因というふうに見ています。また、その後も例年、平成30年と令和元年のほうでは、おおよそ前年比で102%増というような状況だったんですけど、そういったところがコロナが流行し始めた頃と重なりますけど、令和2年度に前年度比で106%の増というような形になった状況がありました。

そういったことも勘案しまして、令和4年度の予算見込みというふうになっています。

以上です。

○委員長（倉部光世君） 答弁が終わりました。再質疑ございますか。15番。

○15番（内田 隆君） 15番です。増になったならちょっと申し訳ないが、今押さえている数字が、何人が何人になったというのを言っただけです。

要するに、見込みが何人でどうすれば、見込みの分で増えたのが6,900万伸びているという形になると思いますから、今3年のときの実数なのか計画なのか分からんですけど、それが今度4年度のときには何人を見込んでこういう増、これだけの人数が増になったもので6,900万増になるという、そういう単純な数字じゃないですか。違うんですか。

○委員長（倉部光世君） 長寿介護課長。

○長寿介護課長（濱野和宏君） 長寿介護課長です。先ほど言った理由を一つそういった切取りの結果で要因としてあるということですけど、じゃあその中で何人が療養に切り替えたとか、在宅系のサービスをどっだけ使っているといったようなところまではちょっとなかなか算出していませんで、前年度実績から何%増とかというような見込みしかないの、人数がどれだけ増えたとかサービスがどれだけ使われたとかというようなところまでの分析というか、算出根拠というかそこまでのデータはちょっと今ないです。

○15番（内田 隆君） 分かりました。

それじゃあ、その次も同じかな、ほとんど。

○委員長（倉部光世君） お願いします。

○15番（内田 隆君） 15番です。同じページのところの介護予防サービスが今回550万ですけどこれだけ伸びているという実績になっていますが、これも同じような理由になりますか。

○委員長（倉部光世君） 長寿介護課長。

○長寿介護課長（濱野和宏君） 長寿介護課長です。そうですね。こちらについても、介護予防サービスについては要支援の認定者が利用する介護予防サービスに係る費用となっていますけど、要支援者自体も増加傾向でありますけど、令和3年度までの実績から算出した、最

終補正でも見込み立っていますけど、当初予算と比較すると上がっていますけど、今年度の最終補正予算額と同程度を令和4年度見込んでいるというような形になっています。

○委員長（倉部光世君） 答弁が終わりました。

○15番（内田 隆君） 結構です。

○委員長（倉部光世君） では、次もう一つ、議題をお願いします。

○15番（内田 隆君） 説明資料の15ページ、介護予防啓発事業いきいきサロン3か所の委託費の内容と、また介護予防事業に関する調査をした結果が多分こうなっているんだと思いますけど、それを教えてください。

○委員長（倉部光世君） 答弁を求めます。長寿介護課長。

○長寿介護課長（濱野和宏君） 長寿介護課長です。まず1つ目のいきいきサロンの3か所への内容についてですが、令和3年度からサロンの運営に送迎分も含めた委託料というふうにしていますけど、これ令和3年度の当初予算に委託費を計上するときに、必要な人件費を加えるところが不足していたために、3年度中ですけど9月に増額補正をさせていただきました。

当初予算同士で比較しますとその違いが大きく出ているものですから増となっているように見える節がありますが、そういったことが要因にあります。

また、人件費や送迎に係る燃料費等も増えている状況がありますけど、実施内容自体には変更がありません。

2つ目の介護把握事業に関する調査内容についてですけど、新型コロナウイルス感染症の影響で地域で行われている高齢者サロンなどの通いの場の活動が停滞している状況が続いています。こういった状況から、出前行政講座や体操教室等で地域に伺った際に基本チェックリスト等を行って事業対象者に必要な予防サービス、介護予防教室等への誘導ができていましたが、現在は地域に出向く機会が減ってしまいましたので、高齢者に関する情報が減っているということになっています。

こういった状況から、75歳以上の高齢者全員に基本チェックリストを郵送しまして調査を実施しようとするものです。調査自体は介護保険事業の2年目に行う予定としております。

また、調査結果については、市で把握している様々な情報ということで、事業に係る調査や民生委員さんが行っている訪問調査、それから包括支援センターが持つ訪問記録等と合わせて整理しまして、必要な人に必要な支援が提供できるよう状況把握に努めてまいりたいと考えています。

以上です。

○委員長（倉部光世君） 答弁が終わりました。15番。

○15番（内田 隆君） 15番です。1回目のほうは、要するに補正を見れば同じ額になるという、理解すればよいですね。全く同じじゃないにしても。

○長寿介護課長（濱野和宏君） はい。

○15番（内田 隆君） あと、その次のやつなんですけど、ちょっと3年に一度やって、たまたま今回前年度は載っていなかったものが今度調査という形で出てくる。コロナと今言い方されましたけど、その下のところに3年に一度はこういう調査をされるということで理解していいですか。この3年ってよくわからなくて、3年に一度介護予防調査を…。

〔「昔はやっていたけど、今（ ）」「そうそう」と呼ぶ者あり〕

○委員長（倉部光世君） 長寿介護課長。

○長寿介護課長（濱野和宏君） 長寿介護課長です。この調査自体は昔もやっていたことがあるんですが、コロナになる前は結構地域の中へ出ていく事業が多かったもんですから、その中でこの基本チェックリストを実施して対象者をこう拾っていけるというような状況であったもんですからしばらくやっていなかったんですが、こういった状況になってしまったので、なかなかそういった方を抽出する機会がなくなってしまったというところで、こういった基本チェックリストを今後は実施して対象者を抽出していくこととしたものです。

○委員長（倉部光世君） 答弁が終わりました。

○15番（内田 隆君） 分かりました。結構です。

○委員長（倉部光世君） いいですか。では、一番下の段、4つ目、横山委員、お願いします。

○16番（横山隆一君） 16番ですが、3款3項2目在宅医療介護連携推進事業費。2つございまして、一つが菊川市版人生会議ノート、私のこれからノートとは。2点目に、人生会議ノートは何冊印刷し、どのように配布をしていくか。

以上2点でございます。

○委員長（倉部光世君） これこの間、議員の方の棚にこれを入れさせて、何か質問で出された後だったと思いますが、配らせていただきました。

○16番（横山隆一君） じゃあそれで。

○委員長（倉部光世君） 濱野長寿介護課長。

○長寿介護課長（濱野和宏君） 長寿介護課長です。1つ目は、今委員長がおっしゃられたとおり皆さんに配付して……

〔「見ていない」と呼ぶ者あり〕

○長寿介護課長（濱野和宏君） 配付させていただきました。

それこそ、令和3年度の当初予算書には、エンディングノートとして計上していたものになります。人生の終末期では、およそ7割の人が自分の意思表示ができなくなっているというふうに言われています。そういった中で、令和3年度の医療介護連携推進事業、これは終末期のケアを考えたとき、家族や親しい人、また治療や介護に関わる人に自分の意思を伝えておく人生会議をテーマとして、菊川医療費介護連携多職種研修会を開催しました。

研修会の準備段階でこのエンディングノートについても検討した結果、菊川市では人生会議を焦点とした市オリジナルの私のこれからノートを作成し、さきの研修会では医療・介護の専門職によるグループワークの教材としても活用しました。

本来は、令和3年中にその研修会をやって、市民講演会を開催してそこで配布ということも考えていましたけど、ちょっとコロナの状況で多くの人を集めてということが難しくなりましたので、事業のほうを切り替えまして、令和3年度は専門職の研修をやって、令和4年度に市民のほうへ周知を図っていくというふうにしています。

印刷部数については2,000部を予定してまして、先ほど言ったような市民講演会、それから講座等を開きまして、その内容で趣旨を理解していただいた方に配布する方法で普及とか活用を図っていくというふうに考えていますけど、また令和4年度の準備会などでそういった詳細な内容については検討していきたいというふうに考えています。

以上です。

○委員長（倉部光世君） 答弁が終わりました。再質疑ございますか。

○16番（横山隆一君） ありません。

○委員長（倉部光世君） 大丈夫ですか。私のほうもございません。

以上で事前質疑終了いたしますが、そのほかございますか。15番。

○15番（内田 隆君） 質問じゃないですけど、僕ら一般会計から見ているもので、この特会の説明資料って非常に見にくいんですけど、これは国保もこれでやってきているんですけど、この修正というのはできないんですかね。これ、一般会計と同じような形のほうが見やすいんですけど、これはできないんですか。

○委員長（倉部光世君） 前の、昔と同じ形態になってね。

○15番（内田 隆君） 一般会計と同じようなやり方、特会も同じようにやっていただいたほうが、科目もこの中に入れれるし、これもし見るとなると予算書引っ張ってこない科目

なんか見れないじゃんね。

○16番（横山隆一君） あれだ、財源内訳とかね。

○15番（内田 隆君） そうそう。

○16番（横山隆一君） そうだね、それは分かりやすいね。

○1番（東 和子君） これ、もうずっと昔からこうなんですか。

○委員長（倉部光世君） ずっとというか、少し前かな。

○16番（内田 隆君） 一般会計もだんだん変わってきました。

○1番（東 和子君） そういうことね。

○委員長（倉部光世君） 健康福祉部長。

○健康福祉部長（鈴木和則君） 健康福祉部長です。ちょっと自分も全体を把握できていなくて、今担当からいろいろ聞いたことの中でお答えしますが、何か財務会計が、システムがこう変わっていく中で、今一般会計の使っている財務会計と特別会計のほうで使っているのがまず違うということと、そこからこうそのまま自動的に数字が飛んできたりとかこないとか。仮に様式だけそろえても、結局手作りで数字入れたりとか。

もっと言うと、この組織側の話なんで僕があまり言うことではないですが、全てのそういった会計間の違いとかというところを、使っているシステムもそうですけども、出力されるこういった出来上がったものもそうですけど、そこら辺のこうしなさいというところにまで来ていなくて、今委ねられているのは独自にこう、今のシステムを使って作るものがこれに今、特別会計まではそろっているんですが、ちょっとそこを一般会計とそろえられるというご意向に関しては、ちょっとまた中でそういうお話が出ましたということをごちらでも伝えさすと同時に、それが可能かどうかというのはちょっと今自分の段階で言えることではありませんので。現状ということでお伝えさせていただきます。

以上です。

○15番（内田 隆君） 分かりました。結構です。

○委員長（倉部光世君） 14番。

○14番（山下 修君） すみません、説明資料の9ページなんですけどもね、先ほどの小笠の包括支援センターの関係と多分同じことなんだろうと思うんですけども、その3の1の1と3の1の2というところで、両方合わせて1,900万ぐらい、対前年比減になっているんですよ。差額がマイナスの360万と、3の3の1の2で1,527万4,000円減になっていますよね。

○長寿介護課長（濱野和宏君） すみません、何ページ。

- 14番（山下 修君） 9ページです。
- 長寿介護課長（濱野和宏君） 予算説明資料の……
- 14番（山下 修君） 歳出の一覧になっているところ。
- 長寿介護課長（濱野和宏君） PDFページの9ページ。
- 14番（山下 修君） 違いますね。PDFだと11ページになる。
- 長寿介護課長（濱野和宏君） 11ページ、包括システム支援事業費。
- 14番（山下 修君） というのが360万の減、それで職員給与費が1,527万4,000円の減。たぶんけやきでやってランチを見ていたときも、2つに分離してもそんなに大きな差はないよということなんですけど、こちらが減になったということは、どっかでこれを、予算が行っているんですよね。特別会計じゃなくて一般会計に行っちゃったとか何とかという、そこら辺がよく見えなくて申し訳ない。
- 委員長（倉部光世君） 長寿介護課長。
- 長寿介護課長（濱野和宏君） すみません、当初予算同士で比較しますとこのように出てくるんですが、令和3年の当初予算を作成したときは、包括支援センターの職員は令和3年度に比べて1人保健師が多かったです。多かったというか、もともといたけど、令和3年度はコロナ対応等も含めてそちらのほうへちょっと対応する職員が必要だったので、職員が1人減になっています、現状。
- 14番（山下 修君） 令和4年度は減になっているということね。
- 長寿介護課長（濱野和宏君） 令和3年度は減になっておる。で、当初予算を立てたときには人事異動が出ていないので、そこまで見込めていませんのでそこを含んだ当初予算になっていますけど、令和4年度は現状減の人員換算になっているので、そこがやっぱり人件費、包括支援事業費もうほとんどが人件費ですので、そこで1人減になったというのが一番その数字で出ている減の大きい要因になっていると思います。
- あとは、先ほど言ったように、特別会計と一般会計で見ているものの按分なんかもありますのでそういったところも出ていますが、一番大きい要因はその1人正職員が減になった部分の金額が大きい要因になっています。
- 委員長（倉部光世君） 答弁が終わりました。
- 14番（山下 修君） いいです。

〔「分かんないよね」「分からないね」「ちょっと難しいです」と呼ぶ者あり〕

○委員長（倉部光世君） 包括センターについては、昨年の10月の全協に開設についての資料を頂いていますので、また皆さん改めて読み直していただけると少しはご理解頂けるのではないのでしょうか。よろしくお願いします。

以上で質疑を終わります。

こちらで執行部が退席となります。お昼過ぎて申し訳ありませんでした。ありがとうございました。

〔「ありがとうございました」と呼ぶ者あり〕

○委員長（倉部光世君） 委員の皆さんについては、自由討議はお昼明けてから。もう30分過ぎちゃった。

○事務局（本間 君） 時間どうしましょうか。

○委員長（倉部光世君） 1時半からやっても。

○事務局（本間 君） 1時間丸々休憩で1時半から。

○委員長（倉部光世君） 1時半から次の自由討議から始めさせていただきたいと思いますので、1時半までご休憩ください。よろしくお願いします。

休憩 午後 0時28分

再開 午後 1時35分

○事務局（本間陽子君） 始めたいと思いますので、ご起立ください。相互に礼。

〔「お願いします。」と呼ぶ者あり〕

○委員長（倉部光世君） 自由討議の前に、大石総務部長からお話があるそうですので、お願いします。

○総務部長（大石芳正君） この前の発言を取り消していただきましたのでお話しさせていただきます。

先日の一般質問、織部議員の際に、自分が答弁した内容ですけど、実は議会のルールの中で、やはり執行部は質問されたことに対して答えるというルールがありまして。それと一問一答というやり方、ルールがある中で、自分の発言は全質全文回答みたいなまず形であったことと、それと織部議員が質問終わりというところで手を挙げて発言をしたことで織部の再質問の機会を、タイミングがよろしくなかったということで、議会のルールについては逸脱



した発言になってしまいました。

そのことについては、正副議長それから議運の委員長から強くお叱りを頂きました。自分としてもしてはいけない発言の手法で議会のルールを乱してしまったということで、本当に申し訳ございませんでした。

これにつきましては、きょう午前中総務建設委員会でも謝罪をさせていただいて、今この席でもさせていただいて、あと議運がありますので議運のほうでも謝罪をさせていただいて、最終的には本会議の中で議長の許可を頂いて全文撤回ということで謝罪をさせていただきたいと思います。

本当に申し訳ございませんでした。

以上です。

○委員長（倉部光世君） ありがとうございます。原則で。

〔「これ、閉会する前でしたね」「28日」「今の件で自由討議したほうがいいんじゃないかな」と呼ぶ者あり〕

○委員長（倉部光世君） それでは、まあ同じような内容になるかもしれませんが、分科会と委員会ということですので、分けてやらせていただきたいと思います。

○委員長（倉部光世君） 令和4年度菊川市介護保険特別会計予算に関しまして先ほど質疑をさせていただきました。それに関して自由討議を行いたいと思います。介護保険特別会計についてのご意見をお伺いいたします。ご意見のある委員は、挙手の上、発言をお願いいたします。居宅介護サービスとかいろんな介護サービス費、いきいきサロン、人生会議も先ほどありましたが、等に関して皆さんから質疑を頂いております。16番。

○16番（横山隆一君） 16番ですが、私のこれからノート、先ほど初めて見たんですけど、私はもうすぐに書かにかいかなんと思っているんですけど、これ意思表示ができなくなる前に書くということなんで、この中にももうすぐに書かにかいかなんような人が何人かいますけど。

〔「時間忘れる人」と呼ぶ者あり〕

○16番（横山隆一君） すみません、最初にそれ。美女が手を打ってくれると何かいいことがあるかな。

〔「わけわからん」と呼ぶ者あり〕

○16番（横山隆一君） これ、何年前ですかね。私どもが非常に掛川のエンディングノートを引き合いに出して、本当にすごいいいで早く出したほうがいいよって言ってからあれか

ら何年ですか、2年経つんですが、ちょっと動きが緩慢だなとか進んでいないような気がいたしました。もう少しいいものが、準備がとか何とか書いてありましたけど、もうちょっと早くてもいいかなというような気がしました。

○委員長（倉部光世君） ありがとうございます。前の期のときに横須賀市に視察に行かれたときにいらした方はこういうお話を多分聞いてきてくださっていて、高齢者に関する多職種連携をしているとか、こういう人生会議ノートとかエンディングノートを作っているとかというお話を多分聞いてきたかと思います。

これ作って終わりじゃなくて、またホームページにこう張りつけて終わりではなく、一人一人きちんと説明をしながらやっていただかないと作れないものですので、さっきからどういう方法でやれますかというのを聞いたんですけども、1回書いて終わりでもないですし、その辺丁寧にやはり、ご家族もこういうのがあるよということを理解していただかないといけないですし、印刷だけして終わりにならないように丁寧な対応をしていただきたいかなと思います。

なかなかこのアドバンスケアプランニングという言葉が難しくて皆さんぴんとこないと思いますけど、病院・介護全部の皆さんの意見を合わせてこれからを考えるということですので、健康な方もぜひやっておいていただかないと後残された人たちがすごく困るなと思います。

ほかに介護保険、ご意見ありますか。これから人数増える一方ではないかと思われませんが。しばらく皆さんが健康で長生きしていただけるといいと思いますが。ご意見ございますか。

5番。

○5番（坪井仲治君） 介護認定の辺りで、認定される側とする側はうまくマッチングしているんですかね。そういう話は、ちょっと私身近にいないもんですから。

○委員長（倉部光世君） マッチングという。

○5番（坪井仲治君） ごめんなさい、認定してもらえないという方が複数見えると。なかなか厳しいというところも何か聞くところもあるもんですから。

○委員長（倉部光世君） 菊川の場合は割と、掛川とかに比べれば早く認定も来てもらえるかなとは思いますが。今3年に1回になりましたので。毎年ではなくなっていますので、少しは回るようにはなっていますが、あまり大勢急になられるとなかなか大変。

○5番（坪井仲治君） 3年に1回ですか。

○委員長（倉部光世君） 今3年に1回ですね、うち母。前は、浅井さんの頃は毎年来てまし

たけど。

- 5番（坪井仲治君）　うちの親父が施設入って生きている頃は毎年。
- 委員長（倉部光世君）　最初、毎年来ていましたけど。
- 14番（山下　修君）　それは継続のときじゃないですか。
- 委員長（倉部光世君）　継続ですよ。
- 16番（横山隆一君）　認定はすぐできる。
- 14番（山下　修君）　新規はね。
- 委員長（倉部光世君）　認定はすぐできます。だから、認定されて前は毎年やっていたけど、そんなに急激に変わるかというとならないので、よほど大きく事態が変わらない限りは3年に1回になってきています。16番。
- 16番（横山隆一君）　それに対して、16番ですが、診療所で受診を受けた方というのは診療所のほうからそういう体の状況によってそういった相談というのはあると思うんですが、菊川病院なんかでは最後退院するときその状況を見て相談をして、じゃあ今後今いう要支援がまず受けられるかどうか。で、介護認定受けられるかどうかという指導はその場でしてくれるもんだから、割合漏れがないんですね、基本的には。
- ただ、在宅で、今言うように、要支援というのは極めてこう微妙なラインなもんだから、ボーダーラインというかね。それで、在宅していても要支援が受けられる方も中にはいらっしやると思うんだけど、これの方のやっぱり拾い出しというか、そういった方々が行動を起こせるかというのは、そういうのは確かに問題があると思いますね。入院していれば大丈夫ですね。
- 委員長（倉部光世君）　ご家族が制度を知らなくて。
- 16番（横山隆一君）　そうです。
- 委員長（倉部光世君）　そのままして、ヤングケアラーじゃないですけども、ずっと何か頑張ってやってしまったという。そこにアドバイスをうまく入れていかないと、使えるのに使えないということが。5番。
- 5番（坪井仲治君）　ただ、5番ですけど、身体用のあれですとすぐ判定できるんですけど、この精神的なものとかそういうところで介護認定をされないという方が何かあるらしいです。精神科医も出してくれなくて、実際家に帰ったらやっぱり扱いにくいという話があって。そういうところが何かもうちょっと分かっただらいいなということを感じるケースを私ちょっと経験したんですよ。

○委員長（倉部光世君） 体が元気だと割と介護度1ぐらいですけど、そちらが進むみたいなことも。あと、家族が近くにいる、いないとかでも大分違うのかなとは思いますが。若い方でも病気されて体がちょっと不自由になると介護認定というのはつくものなので、高齢者だけではないんですけれども。やっぱり制度を皆さん知らないで教えてほしいという連絡が来たりすることがあります。できるだけ行政的な、丁寧に皆さんに、こういう方はこうやって使えるよということは広めていただかないといけないのかなと思います。皆さん介護保険はずっと払っているわけですから、使う必要のある方はぜひ使っていただきたいと思えますけど。

ほかにありますか。よろしいでしょうか。

〔発言する者なし〕

○委員長（倉部光世君） それでは、以上で自由討議のほうを終了いたします。

それでは、採決をさせていただきます。議案第14号 令和4年度菊川市介護保険特別会計予算について、原案のとおり決定することに賛成の方の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○委員長（倉部光世君） 挙手全員。よって、議案第14号は原案のとおり可決すべきものと決しました。

以上で、議案第14号の審査を終わります。

なお、委員会報告の作成につきましては、正副委員長に一任願います。

以上で、教育福祉委員会を閉会いたします。ありがとうございました。

2時からこども政策課がいらっしゃるので、もしもトイレに行きたい方おられましたらお時間にお帰りください。

閉会 午後 1時54分